

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：40118

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00723

研究課題名（和文）小学校英語における学習者を育てるWashbackとCEFRを参照した指導のあり方

研究課題名（英文）Pedagogical Approaches Referencing Washback and the CEFR for Developing Learners in Elementary School English Education"

研究代表者

白鳥 金吾（Shiratori, Kingo）

北星学園大学短期大学部・短期大学部・教授

研究者番号：40733689

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、小学校外国語教育の学習指導に焦点を当てて実施されたものである。2022年度には小学校英語教育学会において、2023年度には日本児童英語教育学会、及び国際学会誌において研究論文が掲載された。本研究では、授業分析手法であるCOLTを用いて、小学校外国語科の授業を分析した。COLTを通じて、授業者一人一人の授業の特徴をコミュニケーション志向という指標で客観的に捉えることができた。また、授業者の指導歴やビリーフが授業の活動形態や活動内容にどのような影響を与えるかを半構造化面接を通して検証した。その結果、授業者の経験や信念が授業活動に顕著な影響を及ぼすことが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校外国語授業をコミュニケーションの視点から分析することは、小学校の英語教育の向上に新たな洞察と創造的な提案をもたらすと考えられる。授業担当者の指導歴や指導観の特徴を分析し、授業の活動形態や指導内容に対する影響を考察することで、小学校の教員同士の相互理解を促進し、気づきをもたらす要素を同定することができる。また、COLTによる授業分析と半構造化面接によるリフレクションを組み合わせることで、高い妥当性と信頼性を備えた調査手法を構築し、関連研究分野への応用が期待される。これらのアプローチは、小学校英語教育の質を向上させるための有効な手段となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study focused on the teaching and assessment of English education in elementary schools in Japan. Research papers were published in 2022 at the Japan Association of English Teaching in Elementary Schools and in 2023 at the Japan Association for the Study of Teaching English to Children and in international academic journals.

In this study, the Communicative Orientation of Language Teaching (COLT) observation scheme was used to analyze foreign language classes in elementary schools. Through COLT, the characteristics of each teacher's class could be objectively captured using the indicator of communicative orientation. Additionally, the study examined how teachers' teaching histories and beliefs influenced the forms and content of classroom activities. The results confirmed that teachers' experiences and beliefs had a significant impact on classroom activities.

研究分野：外国語教育

キーワード：小学校外国語 授業分析 COLT 指導観

1. 研究開始当初の背景

2020年度から導入された小学校英語教育は、教授法の改善、教材の開発、教員の養成など、多岐にわたる条件整備が求められている。これらの課題に対応するために、効果的な指導法の確立と実践的な教材の提供、教員の英語指導能力向上等が急務となっている。

2. 研究の目的

本研究は、小学校外国語授業の効果を高めるためには、学習者の英語力や学習意欲に直接的な影響を及ぼす教授法の改善が最も重要であるという観点から、コミュニケーション力の育成を目指す学習指導要領の趣旨を踏まえた授業であるかを可視化し、学習指導の工夫・改善につながる具体的なデータを提供し、小学校外国語教育の質的向上に寄与することを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、Frölich, Spada, and Allen (1985) によって開発された授業分析手法である Communicative Orientation of Language Teaching Observation Scheme (COLT) を用いて、コミュニケーション志向性の観点から授業の特徴を検証した。また、その結果を授業者に提示し、研究者と授業者との半構造化面接によるリフレクションを通じて収集したデータをグラウンデッド・セオリー・アプローチに基づき質的に分析した。

4. 研究成果

1. 研究初年から2年の主な研究成果

同一町内に所在する小学校2校の6年生の外国語科授業を対象とし、同一の学習指導案を用いて、異なる英語指導歴やビリーフを持つ外部講師が行った授業について、COLTを用いたコミュニケーション志向の分析と、その結果を基に授業者を対象とした面接調査を実施し、以下のことを解明した。

1) COLTによる授業分析を通じて、小学校外国語科授業において、コミュニケーション志向という指標を通して、各授業者の授業の特徴を客観的に捉えることができた。また、他の授業者と比較することで、授業の共通点や相違点を明らかにすることができた。

2) 面接調査の分析により、COLTによって確認された授業の特徴や授業の背後にある文脈が明らかになった。同一の学習指導案であっても、授業者の指導歴やビリーフが授業の活動形態や活動内容に影響を及ぼすことが確認された。一方で、活動形態や活動内容が必ずしも授業者のビリーフを忠実に反映しない場合もあることが判明した。

2. 研究最終年度の主な研究成果

同一町内の2校の小学校において、異なる2名の外部講師が主導する6年生の外国語科授業をCOLTによる授業分析手法を用いて検証し、授業者に対する分析結果のフィードバック前後で、授業の特徴にどのような変化が現れたかについて、以下のことを解明した。

1) COLTのカテゴリーである活動内容、話題制御、グローバル・スコアにおいて、両授業者の2回目の授業がコミュニケーション志向性の高い特徴を示した。特に活動内容に関しては、学習者中心で意味内容を取り扱う活動が増加し、2回目の授業においては、1回目の

COLT 分析結果の提示によるリフレクションを活用し、課題を踏まえた方向に改善されたことが示された。

2) 1 回目の COLT 分析結果に対する研究者との対話を通じて得られた授業者自身のビリーフへの気づきや学びが、2 回目の学習内容や活動の工夫・改善として具体化されたことが確認された。さらに、COLT はコミュニケーション志向性という一貫性のある指標を通して、授業者のみならず、教員同士で授業の特徴や傾向を客観的な視点から確認し、学習指導要領の理念や趣旨と照らし合わせて望ましい英語指導の工夫・改善の方向性を共有する授業研究のための省察ツールとして有効に機能する可能性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 白鳥金吾、志村昭暢	4. 巻 6
2. 論文標題 COLTを用いた専科教員による小学校外国語授業の分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北星学園大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 93,105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白鳥 金吾、志村 昭暢	4. 巻 22
2. 論文標題 授業分析の手法を用いた外国語科授業の比較 教師の指導観がどのように影響するのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小学校英語教育学会 JES Journal	6. 最初と最後の頁 86-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白鳥 金吾、志村 昭暢	4. 巻 42
2. 論文標題 コミュニケーションを視点とした外国語科授業の改善 授業分析によるリフレクションの効果	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会 JASTEC Journal	6. 最初と最後の頁 111-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白鳥 金吾、志村 昭暢	4. 巻 17
2. 論文標題 Assessing an observation tool's effectiveness for reflection among English educators in Japanese elementary schools	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The proceedings of the 25th International Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 223-244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 白鳥金吾、志村昭暢
2. 発表標題 コミュニケーションを視点とした外国語科授業の改善〜授業分析結果によるフィードバックが授業者に与える影響
3. 学会等名 2022年度小学校英語教育学会（JES）四国・徳島大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白鳥 金吾、志村 昭暢
2. 発表標題 授業分析の手法を用いた外国語科授業の比較〜授業者のピリーフが授業・児童にどのような影響を与えるのか？
3. 学会等名 2021年度JES関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白鳥 金吾
2. 発表標題 授業者の経験や指導観が英語授業にどのような影響を与えるか〜授業分析、半構造化面接からみえてきたこと
3. 学会等名 北海道英語教育学会 授業実践フォーラム 2023年度第1回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 白鳥 金吾、志村 昭暢
2. 発表標題 Assessing an Observation Tool's Effectiveness for Reflection among English Educators in Japanese Elementary Schools
3. 学会等名 The 25th International Conference and Workshop on TEFL & Applied Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	志村 昭暢 (Shimura Akinobu) (60735405)	北海道教育大学・教育学部・教授 (10102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------